

自分ごと（自分の事）として学ぶ子供

自分ごととして学ぶ子供（自分の事）

「自分ごと（自分の事）としての学び」は、子供が、「問いや考え」を他者との「協働・対話」を繰り返す中で再構成し、その過程で目指す資質・能力を育てていくような「子供が主体となる学習」を目指します。

「問いや考え」の再構成

子供は、様々な情報や自他の考えを整理しながら、新たな知識・技能を獲得していきます。さらに、新たな問いが生まれ、次の学びへつなげるなどして、学びを深めていきます。

「問いや考え」を持つ

子供は、教材となる対象や事象との関わりの中で、自分の予想が結果と異なる場合や、他者の見方との違いを認識した時などに、問いや考えを持ちます。

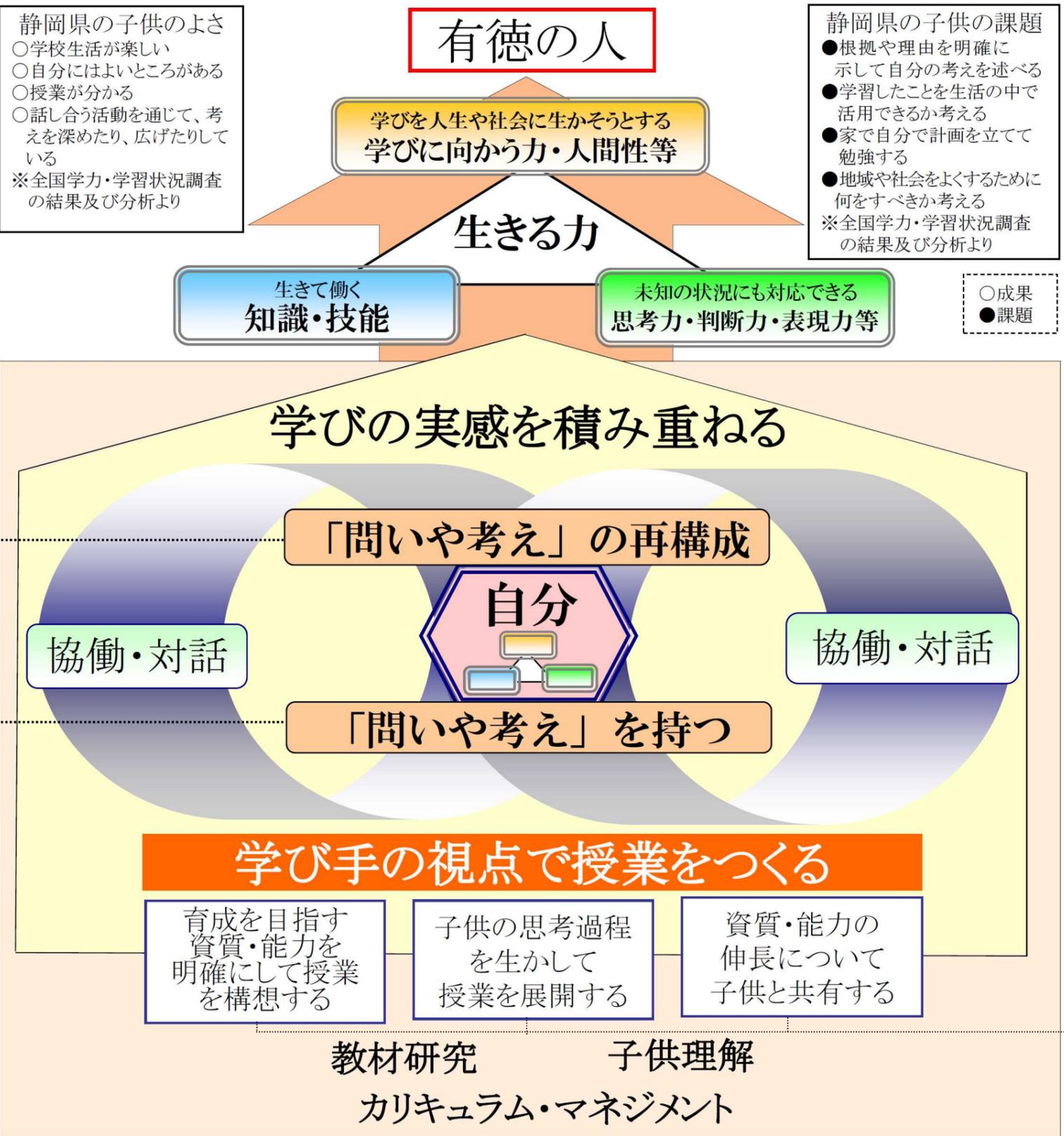
時代の変化
 知識基盤社会
 予測が困難な時代
 ・Society5.0(超スマート社会)
 人工知能等の進化や情報技術の進展
 ・グローバル化
 ・人口問題、自然災害、民族紛争 等

日本の子供の実態
 (参考:PISA調査、内閣府調査)
 国際的に上位の学力
 「人の役に立ちたい」と考える子供の割合
 協力して問題解決する力
 学ぶことと人生や社会とのつながり
 学ぶことの楽しさや意義の実感
 各場面で発揮される読解力

世界における教育の動向
 汎用的な能力の育成を重視
 OECDやグローバル企業等が、社会において自立的に生きるために必要な力を提言
 道徳教育の推進
 市民性教育など、宗教や文化を越えた、人としてよりよく生きるための道徳性を育成

静岡県の子供のよさ
 学校生活が楽しい
 自分にはよいところがある
 授業が分かる
 話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりしている
 ※全国学力・学習状況調査の結果及び分析より

静岡県の子供の課題
 根拠や理由を明確に示して自分の考えを述べる
 学習したことを生活の中で活用できるか考える
 家で自分で計画を立てて勉強する
 地域や社会をよくするために何をすべきか考える
 ※全国学力・学習状況調査の結果及び分析より



学び手の視点で授業をつくる教師

「自分ごと（自分の事）としての学び」を実現していくためには、「肯定的な子供観」に基づきながら「学び手の視点で授業をつくる」ことが大切です。

育成を目指す資質・能力を明確にして授業を構想する

学習指導要領や子供の実態に基づいて育成を目指す資質・能力を明確にし、子供の思考過程を具体的に想像しながら単元や題材を構想します。

- ・ 子供の既存の資質・能力や興味・関心、学習に関わる経験などを学びの芽として捉え、学習指導要領に基づいて、単元や題材の目標を設定する。
- ・ 目標や子供の実態に照らして教材の特長を見いだすとともに、子供の視点から教材の魅力を探る。
- ・ 子供自らが持った目的や目標を子供自身が実現していけるよう、子供の思考過程を子供の言葉や姿で具体的に想像し、単元や題材を構想する。

子供の思考過程を生かして授業を展開する

子供の言葉や姿から、考えや取組のよさなどを捉え、子供の思考過程を生かしながら授業を展開します。

- ・ 日頃から子供理解に努め、子供の言葉や姿の背景にある考えや思い、願いなどを捉えて学習課題を設定するなど、子供の考えや思いを学習過程に生かす。
- ・ 協働や対話等の他者と関わることの必然性を子供が感じるよう、その目的や方法を子供と共有する。

資質・能力の伸長について子供と共有する

子供自らが学びを振り返り、学びの積み重ねや成長を実感できるよう、子供の学びを多面的・多角的に評価し、子供と共有します。

- ・ 学習の過程や結果における資質・能力の伸長や学習の進め方を、目標に基づいて多様な方法で様々な視点から評価し、教師の指導改善、子供の資質・能力の育成につなげる。
- ・ 子供自らが振り返ったことや教師が評価したことなどを子供と共有し、子供自身の、学習活動の調整や学習したことの意味・価値の実感につなげる。